

令和7年度【大田区立東調布第一小学校・理科授業改善推進プラン】

◎ 小学校理科における分析

分析	物質とエネルギー		生命と地球
	4・5年生は区・全国平均、目標値を上回り、基礎知識の定着と活用力の向上が見られた。6年生は区平均を上回るも、全国平均を下回り、概念理解や実験の結果の解釈に課題があると考えられる。		4・5年生は全国・区平均、目標値をすべて上回り、観察活動や比較による理解が深まっている。6年生は区平均を超えるものの、記述問題での表現の正確さに課題があり、改善が求められる。
観点別結果の分析	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	4・5年生は基本事項の理解・定着が図られており、高い成果が得られた。6年生は理科の用語の使い方に課題があり、指導の中で明確な知識の整理を重視する必要がある。。	4・5年生は高い正答率を示し、理由をもって考えを説明する力が育っている。6年生は全国平均を下回り、実験や観察の結果からの考察や多面的な見方の育成に課題が残る。	

◎ 理科の今回の調査における課題

本年度の調査において、4・5年生は全項目で目標値を上回る結果となり、児童の理科に対する高い資質・能力が明らかとなった。特に5年生は昨年度においても良好な結果を示しており、継続して理科への興味・関心が高く、それに伴って学力も着実に向上していると考えられる。

また、一般的に基礎的な問題に比べて正答率が下がりがちな「活用的な問題」においても、本校の4・5年生は高い正答率を示しており、思考力・判断力・表現力を問う観点別の設問でも良好な成果が見られた。特に児童が苦手とする傾向にある記述式問題においても、全国や区と比較して非常に高い正答率を記録しており、日頃の学習成果が反映された結果となった。

一方、6年生については、区の平均は上回ったものの、全体として全国平均を下回る結果となった。内容、観点、回答形式を問わず、全般的に課題が見られた点は昨年度と同様であり、今後は理科に対する興味・関心をさらに高める指導や、学習の定着を図る工夫が必要である。

◎ 理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組◇成果と◆課題

◇観察や実験結果をグラフなどで表す活動を継続したことで、結果を整理・表現する力が育まれ、活用的な問題での正答率の高さにつながった。

◇「問題―予想―実験―結果―考察」の流れを重視した授業により、記述式問題でも根拠をもって説明する力が育ってきた。

◇空気や光などの見えない事象を図や絵で表す活動を通して、科学的な見方・考え方が少しずつ定着してきた。

◆ICT機器を活用し、友達の考えに触れて自分の考えを広げるような学習活動が十分でなく、思考の深まりに課題がある。

◆実験用具の整備が不十分で、少人数での活動が難しい場面がある。主体的・対話的な活動の充実には、環境面の改善が必要である。

◎ 理科の具体的授業改善案

本校では、昨年度の学習状況や学力調査の結果を踏まえ、理科における児童の思考力・判断力・表現力等のさらなる向上を目指して以下の取組を進める。

- ・4・5年生で見られた活用的な問題や記述式問題への高い対応力を、6年生でも身に付けられるよう、単元ごとの授業の工夫を行う。特に「予想―実験―考察」の学習の流れを重視し、児童が自分の考えを根拠をもって説明する活動を取り入れていく。
 - ・ICT機器の活用を進め、友達の考えと比較したり取り入れたりできるような学習環境を整える。動画や写真、意見共有のツールなどを活用し、見えにくい現象の理解や多面的な思考を促していく。
 - ・実験・観察活動の質を高めるため、道具の整備を進め、少人数での活動が可能な体制づくりを行う。これにより、児童が主体的に実験に取り組む時間を確保する。
 - ・授業後の振り返りやノートの活用を通して、自分の考えを言葉で表現し、他者に伝える力を育てる。記述式問題への苦手意識を減らし、論理的に思考する力を高めていく。
- これらの取組を通して、児童が理科の学習を通じて身の回りの現象に関心を持ち、自ら問いを立てて学ぶ姿を育てていく。